

高祖遺跡群

福岡県糸島郡前原町大字高祖所在遺跡群発掘調査報告

前原町文化財調査報告書

第 29 集

1988

前原町教育委員会

高祖遺跡群

1988

前原町教育委員会

序 文

前原町は、原始古代より栄えた地として、多くの住民・国民から知られるようになっています。

本町には、弥生・古墳時代を中心とする埋蔵文化財包蔵地が数多くあり、その地域の広さとそこからの出土遺物の多さは、他の地域に比較して目をみはるものです。

今回の調査の契機になったのは、前原町が福岡市のベッドタウン的性格をもった都市機能をもってきており、住民の増加に伴い、小・中学校の建設が必要になり、怡土小学校の増築が計画され、着工することになりました。

よって、以前に、校舎増築部分の埋蔵文化財発掘調査を実施して、この報告書を作成することになった次第です。この報告内容が、今後の社会教育・学校教育活動の一助となり、この前原町はもとより日本の古代文化の究明の資料となれば幸いに存じます。

最後に、埋蔵文化財発掘調査を実施するにあたり、各関係者や作業に従事していただきました方々に対して、感謝を申し上げます。

昭和63年3月31日

前原町教育委員会

教育長 河原吉美

例 言

1. 本書は福岡県糸島郡前原町大字高祖 814 番地に所在する埋蔵文化財包蔵地の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び遺物整理事業は前原町教育委員会社会教育課文化係で実施し、その費用は国庫補助金と町費を充当した。
3. 本書に記載した実測図で、出土遺構図等は調査時に川村 博が作成し、出土遺物実測図は川村・古川秀幸・久山高史・藤尾慎一郎が作成して、各図面等の製図には内布久美子・吉村知恵美・西 祐三子がおこなった。
4. 本書の図版は、川村が撮影した。
5. 本書の遺構実測図の標高は37.35mであり、図面の中には記入していない。
6. 本書の遺構の報告文は川村がおこない、出土遺物一覧表の作成は内布・吉村がおこない、観察部については統一をはかった。
7. 本書の編集については、林 覚・岡部裕俊・角 浩行の助言のもとに、吉村・内布・川村がおこなった。

I はじめに

調査に至る経過

前原町では、福岡市のベッドタウン的性格を有する近郊都市になりつつある現在、人口急増地区の指定をうけ、小・中学校の建設等におわれている現状にある。

以上のような状況のもとで、前原町では、怡土小学校の校舎増築が立案され、昭和62年度に不足教室等の建設が実施されることになった。

そこで、前原町教育委員会社会教育課では、怡土小学校用地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、学校建設担当課係である学校教育課や企画財政課等と協議の上、文化財保護法の所定の手続きを実施しあった上に、試掘調査を大型機械により実施した。試掘調査では埋蔵文化財の包蔵層を検出したため、その時点で試掘調査を終了し、小学校児童の保護を目的にロープ等で立入禁止区を設定して、本調査を実施する協議を開始した。協議の内容は、昭和63年度には増築校舎の供用になるために、昭和62年7・8月の夏休み中に校舎建築の基礎工事を実施したいということで、試掘調査に続行して、直ちに本調査を実施した。本調査は樹木の保存等の問題がまだ未解決であったため、校舎増築面積の一部が未調査におわった。

本調査終了後、出土遺物の整理を実施して、今回の報告になった次第である。

なお、試掘調査は昭和63年5月30日で、本調査は昭和62年6月18日から7月16日である。

調査の組織

調査主体 前原町教育委員会

総 括	教育長	河原吉美		
	社会教育課長	井上 尚	社会教育課文化係長	吉村 耕治
庶 務	〃	社会教育係長 矢野豊秋	〃	社会教育係主事 久保 静代
調 査	〃	文化係主事 川村 博		

なお、調査・整理作業時においては、社会教育課文化係主事 林 覚・岡部裕俊・角 浩行氏に有益な助言をいただいた。また、整理作業には作業員等に誠意努力していただき、九州大学文学部考古学研究室助手藤尾慎一郎氏（現・国立歴史民俗博物館助手）や学部生、大学院生には有益な教示を得て、この報告になった次第であります。

最後に、調査にご協力いただきました関係者・怡土小学校関係者・校舎建築施工主である金城・橋崎共同企業体の方々にお礼を申し上げる次第であります。



第 1 図 高祖遺跡群位置図 (1/50,000)



第 2 図 高祖遺跡群発掘調査位置図 (1/5,000)

II 遺構と遺物

(1) 遺 構

概 要

調査区は第2図に示すように、既存校舎の東側の増築部に設定し、試掘調査・本調査を実施した。

調査区の層序は模式図に示すように各土層（真砂土で4回程埋立てられている）・茶褐色土層・黄褐色研質土層・同（礫混入）層の順で構成されていた。

茶褐色土層中及びその層除去後の黄褐色砂質土層より掘込まれた遺構として、竪穴式住居跡（SB01・SB05）・土壇（SK01・SK11）・溝（SD01・SD02）・

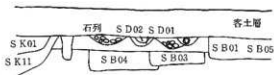
石列があり、黄褐色砂質土（礫混入）層より掘込まれた遺構は竪穴式住居跡（SB04・SB03など）がある。

調査で検出した遺構は、櫓列1条・竪穴式住居跡7棟・掘立柱建物跡1棟・土壇2基・土壇基1基・木棺墓1基・溝2条・石列（近代建物跡1棟分）・土管列2条を検出した。

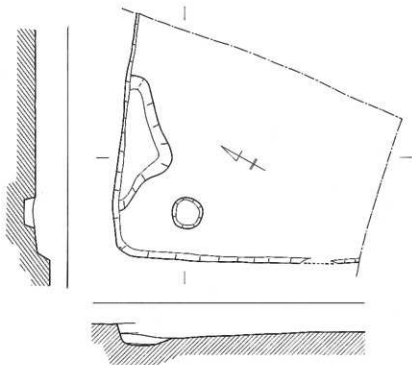
構 列

SA01第3図

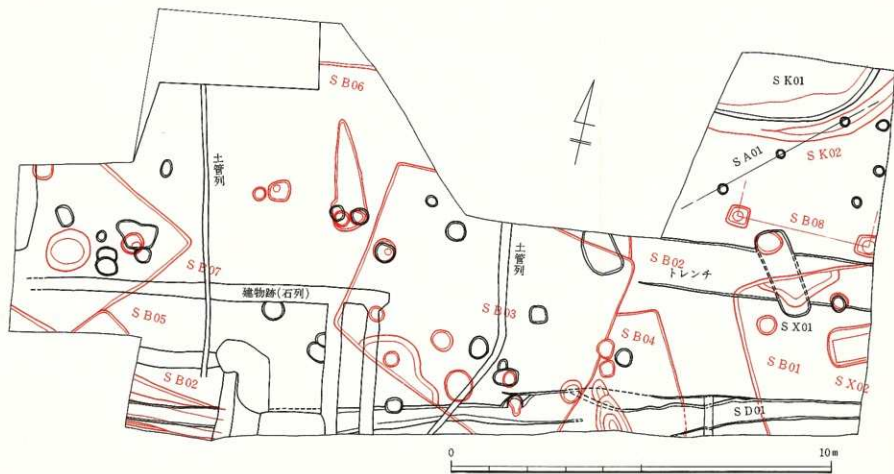
調査区東側で検出



第4図 土層・遺構の模式図



第5図 SB01 実測図 (1/60)

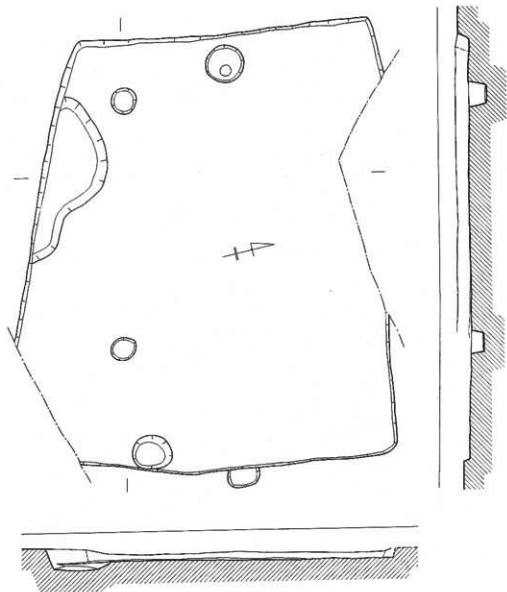


第 3 図 高祖遺跡群・遺構配置図 (1/100)

した櫛列で、その方向はN 49° Eで、柱穴3個からなる。柱間間隔は約1.85mを測る。柱穴の径は約0.25mである。櫛列の北西側に柱がのびれば、掘立柱建物跡になる可能性もある。時期は不明である。

竪穴式住居跡

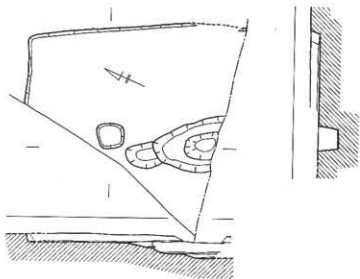
SB01 (第5図) SB01は調査区東側で検出した。木棺墓SX02・溝SD01などに切られてい



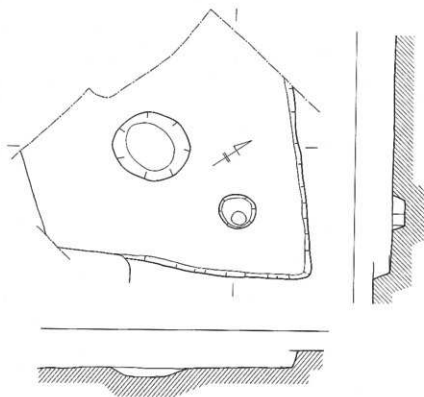
第6図 SB03 実測図 (1/60)

る。住居跡の北壁・西壁を検出し、北壁側床面に不整形の貯蔵穴を調査できた。柱穴は2個検出している。住居跡の全掘はできていないが、隅丸方形プランになると考える。

SB02 (第3図)
SB03に切られた住居跡で東壁のみを検出できた。時



第7図 SB04実測図 (1/60)



第8図 SB07実測図 (1/60)

期は不明である。

SB03 (第6図) SB02・SB04を切っている隅丸方形の住居跡で、南壁床面に貯蔵穴を検出できた。柱穴については、調査時に検出の努力をしたが不明な点が多い。

SB04 (第7図) SB03に切られた住居跡で、隅丸方形プランになるであろう。SB01と建物の方向は同じである。柱穴は1個検出しており、床面中央部で不整形土壇を調査できたが貯蔵穴的遺構とも考えられる。

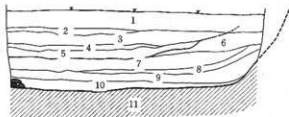
SB05 (第3図) 調査区西側で、SB07・SD02に切られて調査できた住居跡で、隅丸方形プランになると考える。検出した規模等は北隔壁のみであるため柱穴などは床面で検出できていない。

SB06 (第3図) SB05・SB07の間の北側で検出した住居跡で、南壁の一部しか調査できなかった。壁面の形状は住居跡的であり、住居跡として報告している次第である。

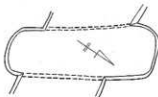
SB07 (第8図) SB05・SD02に切られた住居跡で方形プランを呈するであろう。床面中央部に円形土壇を検出した。円形土壇の深さは約0.15mを測り、貯蔵穴的施設と考えられる。柱穴は2個検出している。

掘立柱建物跡

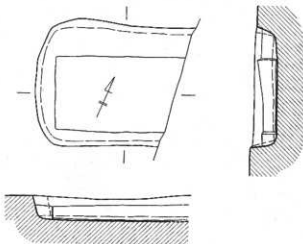
SB08 (第3図) SB01の北側で、方形プランの柱穴を2個検出できており、柱穴掘方の埋土内検出中に柱抜跡をそれぞれ検出したので、掘立柱建物跡として報告することにした。柱穴の掘方の大きさは約0.65mを測り、柱抜跡の径は約0.3mを測る。柱間間隔は3.53mを測る。



第9図 SK01・SK11 土層図 (1/60)



第10図 SX01 実測図 (1/60)



第11図 SX02 実測図 (1/30)

溝

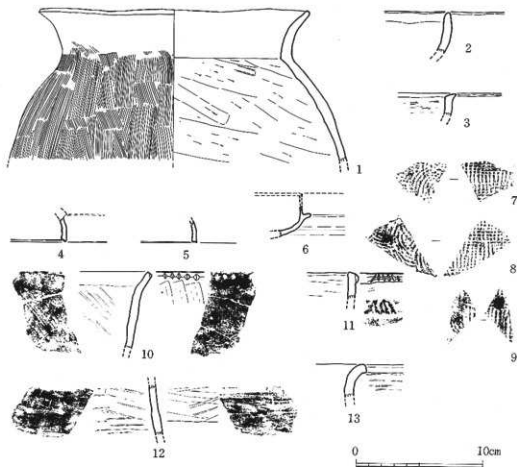
SD01 (第3図) 調査区南側を横走する溝で幅約0.4~1.0mを測る。埋土は砂礫土層で、かなり後世の時期のものと考ええる。土管列・石列(建物跡)には切られている。

SD02 (第3図) SD01に切られて検出した溝である。幅は不明である。

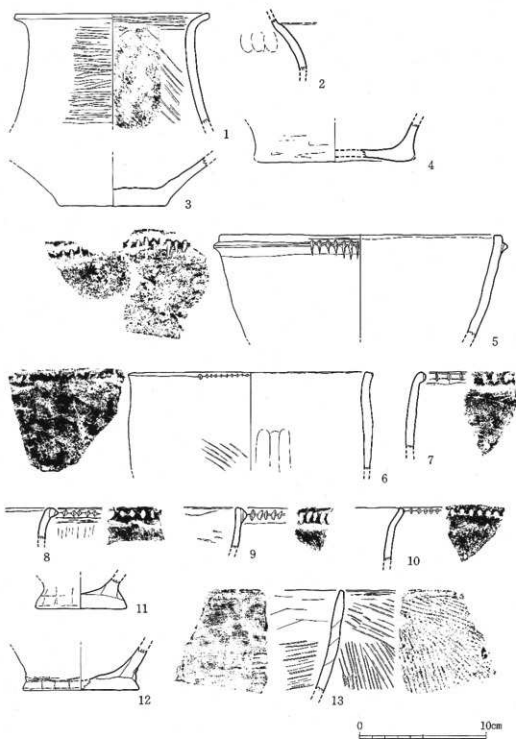
土壇(第3・9図)

SK01 調査区の北東側で検出した楕円形プランになるであろう。SK11を切っているが、SK11・SK1の前後関係の調査区北側壁(土壇埋土)の土層でSK01が古いことが理解できる。土層は4層にわかれ、茶灰色砂質土を最下層とする。

SK11 SK01に切られた土壇で、ほぼSK11の遺構内にSK01のプランははいってしまう。最下層は黒褐色粘質土で、その土層内に礫石を含む。土壇の南壁ではフラット部を有する。発掘後、若干の湧き水があったが、井戸跡と考えるには水量に問題があるようである。



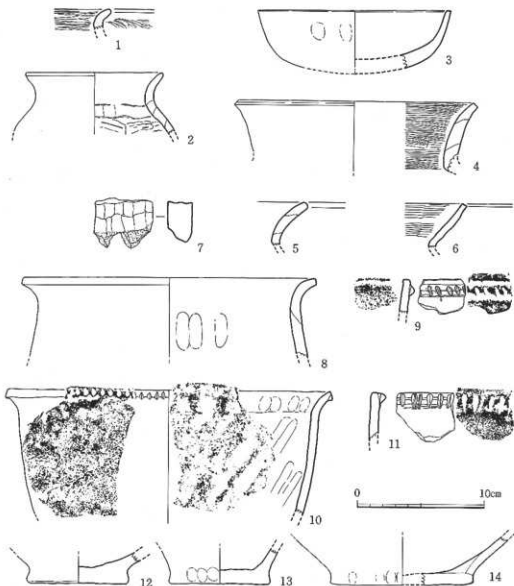
第12図 SB01 出土土器実測図 (1/3)



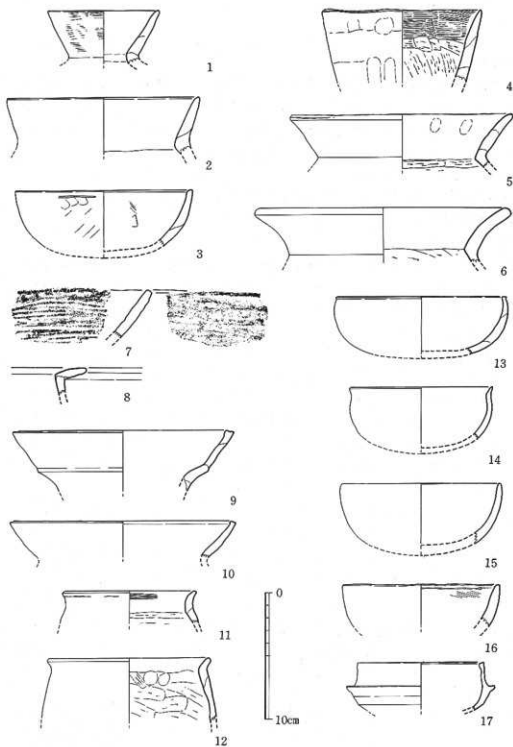
第 13 图 S B03 出土土器夹测图 (1/3)

土墳墓 (第10図)

S X 01 S X 01は、試掘調査の際、深く土層の土を除去したため、土墳墓の中央部を削平してしまっ、調査区東側で検出した。長方形を呈し、小口部はほぼ円形を呈する。頭位は北西側であろう。土墳墓主軸はN33°Wである。墓の深さはわずかであり、墓壇の検出まではできなかった。伴出遺物はなかった。



第 14 図 S B 04・05・07 出土土器実測図 (1/3)



第 15 図 S D01・石列・ピット・出土土器実測図 (1/3)

木棺墓 (第11図)

S X 02 調査区東側でS B 01の埋土中で検出した。よって、遺構検出・完掘状況の写真の図版のようになってしまった次第である。墓壇は隅丸長方形プランで、棺は長方形として確認できた。なお、一方の小口部は調査区外である。棺内の精査では、棺材の大きさの検出に努めたが、不可能であった。出土遺物で、副葬品となるものは出土していない。

その他の遺構 (第3図)

石列 調査区の南西部側で、石列を検出した。幅 0.5mの掘方を持ち、礎石を並べていた。形状は東西方向に2条・南北方向に3条であり、建物跡の基礎であろう。石列は調査区南側に横走るS D 01を切っている。

土管列 土管列は、調査区中央・西側で検出した。西側土管列は、石列を切り南北に縦走する。中央部土管列は、「く」の字状にまがる。土管列は、運動場の排水の機能をもっていた。

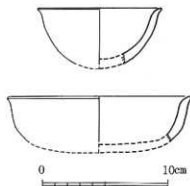
ビット 調査では30個あまりの柱穴状ビットを検出したが、建物跡がたつというような状況ではなかった。

(2) 遺物

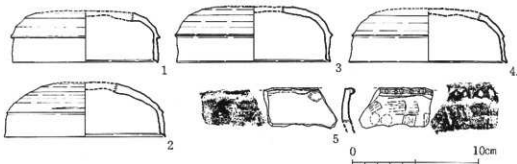
今回の発掘調査では、弥生土器(突帯文系土器を含む)・土師器・須恵器が出土した。各遺構から出土した遺物で、実測可能な範囲については、出土遺物一覧表で示したとおりであるが、一覧表で器高などを明示していないものは、完形品(実測図上完形品を含む)でないものである。

土器

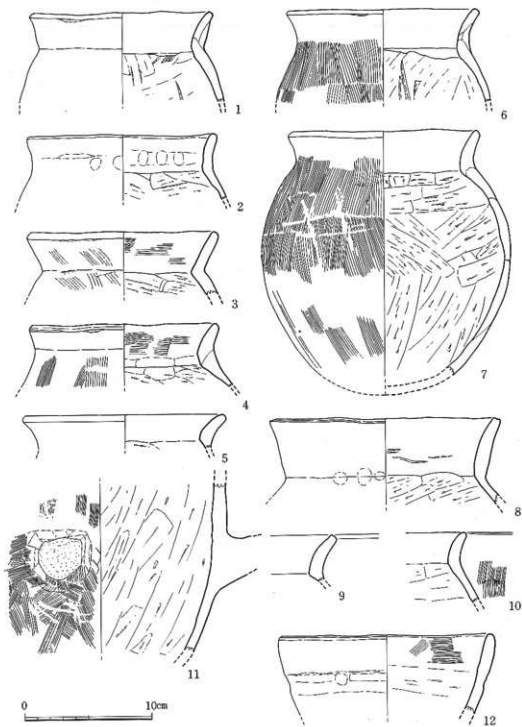
S B 01 (第12図) 土師器(甕・埴)・須恵器(杯蓋・杯身・甕)・突帯文系土器(甕)・条痕文系土



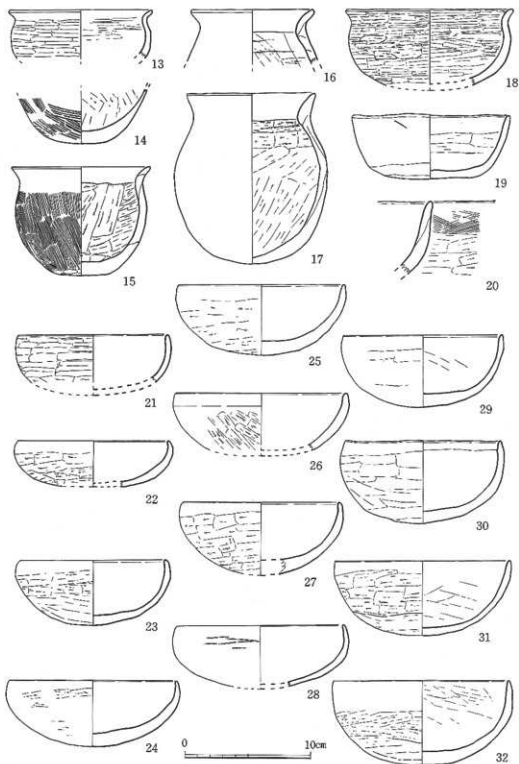
第 16 図
S D 02 出土土器実測図 (1/3)



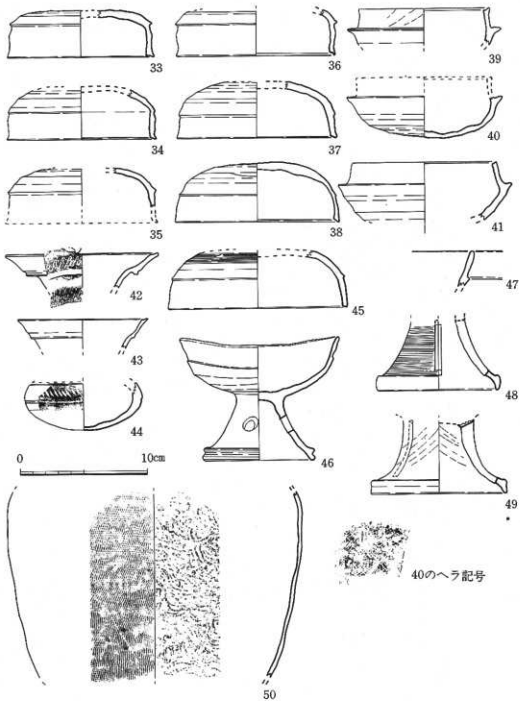
第 17 図 S K 01 出土土器実測図 (1/3)



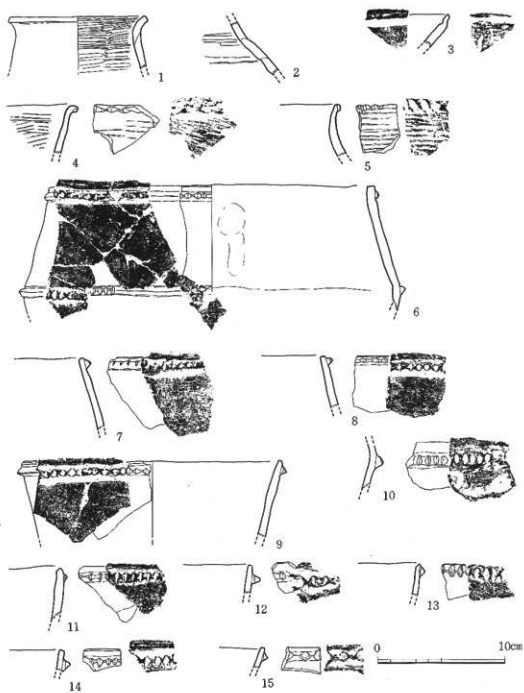
第 18 图 S K 11 出土土器实测图 ①(1/3)



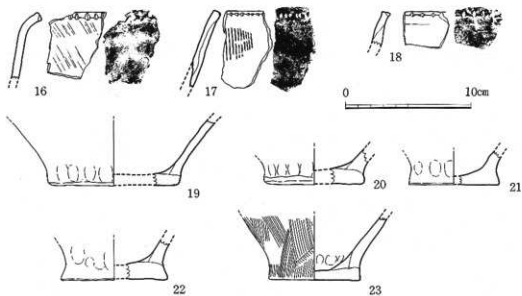
第 19 图 SK11 出土土器实测图 ② (1/3)



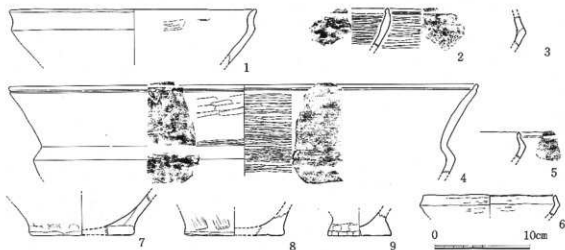
第 20 図 S K11 出土土器実測図 ③ (1/3) [50±1/6]



第 21 图 3 层出土土器实测图 ① (1/3)



第22図 3層出土土器実測図② (1/3)

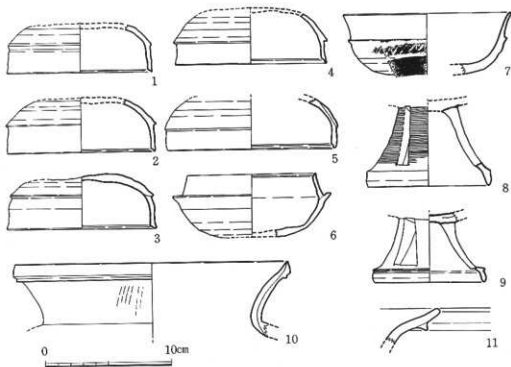


第23図 4層出土土器実測図 (1/4)

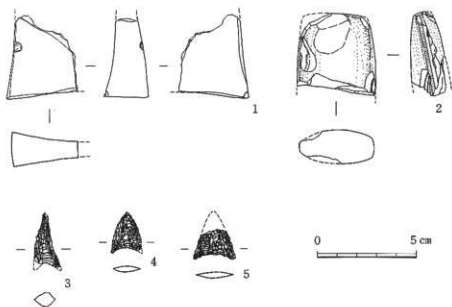
器(甕)などを出土した。1号住居跡の時期は古墳時代後期である。なお、10・11の刻み目は板状工具の角・ヘラでつけられている。

SB02 調査区はわずかであり、出土遺物はなかった。

SB03 (第13図) 突帯文系土器(壺・甕)・条痕文系土器(甕)が出土した。1・2は壺で、1は外面に黒塗りを施し、2は丹塗りである。4は壺の底部と考えられ、黒塗りである。5-



第 24 図 その他の出土土器実測図 (1/3)



第 25 図 出土石器実測図 (1/2)

12は甕で、5・7はへらで刻み目を、4・8・10は板状工具の角で、9は爪で刻み目をつけている。11・12は指頭圧痕による成形である。13は条痕文系土器であり、内面上部は条痕で板ナデ的调整で消している。

SB04 (第14図1) 突帯文系土器の壺で、内外面丹塗りである。

SB05 (第14図2) 土師器(壺)であり、口縁部ヨコナデであり、古墳時代後期の時期である。

SB06 2号住居跡と同様に調査面積が少なかったため、実測可能な土器の出土がなく、時期の決定はできていない。

SB07 (第14図3~14) 土師器(壺・甕)・突帯文系土器(甕・壺)が出土した。6は布留系の甕の口頸部である。9・11の刻み目はへらで施され、10は板状工具の角で施され、胴部内面に強いナデをみる。12・13は甕で、14は壺の底部であり、外面に指頭圧痕の成形をみる。

SD01 (第15図6~17) SD01出土土器は破片が大半であり、時期決定できるものはない。7は条痕文系土器で浅鉢になる。8は弥生土器で中期である。6・9~16は土師器で壺・甕・壺の器形である。9は二重口縁で、10は布留系であり、16の壺は丹塗りを外面に施している。17は須恵器の杯身である。SD01埋土内出土土器のなかでは、6・11・12が時期的に下るものであろうが、調査時の観察では近代の溝と考える。

SD02 (第16図) 土師器の壺が出土している。1・2ともに口唇部を外弯する。時期決定できうる資料ではない。

SK01 (第17図) 須恵器の杯蓋を出土している。混入出土土器として、突帯文系土器(甕)があり、口唇部刻み目は板状工具の角で施している。

SK11 (第18~19図) 土師器(壺・甕・壺・甗など)・須恵器(杯蓋・杯身・高杯・甗・甕)を出土した。土師器では11・12は甗で、11の径の復元には不安なところがある。14は、壺の底部で、底部外面には荒いハケ目をみる。16・18・21・24・29・30・32には丹塗りをみ、16は口頸部内面と外面、他は外面に施されている。須恵器では、42の口頸部2ヶ所に波状文、44の胴部に刺突文をみる。高杯である46・47の脚部には3ヶ所の透し孔をみ、48には4ヶ所施されている。50の甗は外面に平行叩き目の後に櫛状工具による沈線をみ、内面には同心円叩き目をみる。40の杯身にはへら記号「X」をみる。

石列 (第15図1~3) 石列内からは土師器(壺・甕・壺)が出土している。時期を決定しようものではない。

ピット (第15図4・5) 4はP-14出土で、5はP-10出土である。

3層 (第21・22図) 突帯文系土器(甕・壺・浅鉢)・弥生土器(甕)を出土した。4は口縁部刻み目は指頭で施され、内外面に条痕をみる。5の口縁部刻み目は断面半円形を呈し、体部外面に条痕をみる。6・8~10・12・14・16~18の刻み目は板状工具の角により施され、7・

12の刻み目はへらで施されている。13の刻み目の断面は形状が「U」形を呈している。甕で5・6以外の胴部などは割合に丁寧なナデで仕上げられている。19～22は底部で指頭圧痕成形である。23は弥生土器で外面にハケ目をみる。

4層（第23図） 突帯文系土器以前の土器を出土している。1～3・4・6は浅鉢で、2は黒色磨研され、3には外面に丹塗りをみる。4は大型の浅鉢といえるが、黒色磨研土器である。7～8は底部で、7は壺になるかもしれない。

その他の出土土器（第24図） ここで図示した遺物は、発掘調査完了後、校舎建築に際して、調査中解決していなかった樹木の伐採・伐根の際に出土したもので、遺構の性格は把握できなかったものである。図示したものは須恵器のみで、他は土師器の出土もある。7は高坏で波状文をもち、8・9の脚部には3ヶ所の長方形透し礼をもっている。11の甕の口縁部下にはシャープな三角突帯をもつ。

石器（第25図） 1は砥石で砂岩質であり、2は磨製石斧で、小型品であり、粘板岩質である。3～5は黒曜石である。1・3はSB07出土、2・5は3層出土、4は4層出土である。

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
1号住居跡出土土器								
1	甕	21.4			白色砂粒・角閃石・金雲母を含む		普通で良好	口頸部は外弯し、胴部内面にへら削り、外面にハケ目をみる。
2	埴				白色砂粒・角閃石・金雲母を含む	赤茶色	普通	口唇部は丸味があり、外面にナアをみる。
3	埴				白色砂粒・角閃石・金雲母を含む	赤茶色	普通	口唇部は平坦に外傾し、外面につまむように張出している。
4	坏蓋				白色砂粒・角閃石を含む	灰色	普通	口唇部に段をみる
5	坏蓋				割合に良好	青灰色	普通	同上
6	坏蓋				砂粒なく良好	青灰色	普通	
7	甕				砂粒わずかに含む	青灰色	普通	外面は平行叩き文後横方向に5~8条の沈線をみ、内面は同心円叩き文をみる。 (7~9は同一個体)
8								
9								
10	甕				石英質砂粒・金雲母・角閃石を含む	(外)黒色 (内)茶色	普通	口縁部は外反し、口唇端部に刻み目・胴部外面に板状工具のナア。
11	甕				白色砂粒・金雲母を含む	淡黒灰色	普通	口唇部外面にへら状工具による刻目
12	甕				微砂粒・金雲母を含む	(外)暗茶色 (内)明茶色	堅く良好	内外面とも条痕をみる。
13	甕				白色微砂粒・角閃石・金雲母を含む	明赤茶色	ややあまい	条痕をみる。 口縁部が外反し、外面に
3号住居跡出土土器								
1	壺	15.2			石英質砂粒を含む	黄茶色	良好	口縁部が外反し、外面等にへらミガキ
2	壺				石英質・白色砂粒を含む	赤茶色	良好	外面丹塗りミガキ、内面肩部指頭圧痕
3	壺		8.3		白色砂粒を含む	茶色	普通	
4	壺?		12.2		白色砂粒を多く含む	黒茶色	ややあまい	外面黒塗り
5	甕	23.2			砂粒わずかに含むが良好	黒色	普通	口唇部平坦で、その下に三角刻目突帯文
6		19.2			白色砂粒を含むが精選	灰白色~黒色	普通	口唇部わずかに外反し、外側に刻目である。

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
7	甕				白色微砂粒を含む	黄茶色	普通	口唇部外反し、刻目口唇部粘付け?
8	甕				微砂粒を含む	(外)黒茶色	普通	口唇部粘付で、刻目
9	甕				白色砂粒を含む	黄茶色	普通通	口唇部三角粘付突帯刻目
10	甕				砂粒あまり含まず良好	(外)黒茶色 (内)茶色	良好	口唇部外反し、外面に刻目
11	甕			7.2	白色砂粒を含む	淡茶色	普通	外面は圧痕の整形
12	甕			9.1	石英質・白色砂粒を含む	淡赤茶色	普通	同上
13	甕				白色微砂粒を含む	(外)黒色 (内)黒色	普通	外面条痕後板ナテ的で内面条痕
4号住居跡出土土器								
1	壺				砂粒含まず良好	赤茶色	良好	外面、内面ヘラミガキで丹塗り
5号住居跡出土土器								
2	壺	10.8			白色微砂粒・金雲母・角閃石を含む	淡赤茶色	良好で精微	肩部内面ヘラ削りで、接合痕明瞭で、外面ヨコナテ
7号住居跡出土土器								
3	埴	15.2			白色微砂粒・金雲母・角閃石を含む	赤茶色	堅く精微	口唇部平担で凹部があり外面指頭圧痕で、内面ナゼ
4	甕	19.2			白色・石英質砂粒を含む	黄茶色	普通	外面ヨコナテ、内面ハケ目で、口頸部外反
5	甕				白色砂粒・角閃石を含む	淡黄茶色	普通	口頸部外反で、体部内面ヘラ削り
6	甕				白色微砂粒・角閃石を含む	橙灰色	良好	外面ヨコナテ、内面ハケ目
7	羽口				砂粒なく精選されて良好	黄茶色	普通	金属質付着
8	壺	23.2			白色砂粒を含む	暗黒赤茶色	ややあまいが器表は良好	内面に指頭による強いナテ後に、内外面に研摩
9	甕				白色砂粒・石英質砂粒を含む	濃灰茶色	普通	口唇部平担で、下部に粘付刻目突帯
10	甕	25.8			白色砂粒・角閃石を含む	(外)灰黒色 (内)灰色	良好	口縁部が外面し、刻目で体部内面にナテ
11	甕				白色砂粒・角閃石を含む	(外)淡灰色 (内)灰白色	普通	口唇部外面に粘付突帯でヘラによる刻目
12	壺			8.0	白色砂粒を多く含む	黒灰色	もろいが良好	円盤粘付けの底部?

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特長
13	甕			8.0	白色砂粒を含む	黄茶色	ややあまい	外面に指頭圧痕の成形
14	壺			11.3	石英質砂粒をわずかに含む	赤茶色	ややあまいが良好	同上
S K 0 1 出土土器								
1	坏蓋	11.55			白色砂粒・角礫石を含む	淡青灰色	ややあまいが精緻	口唇部はまっすぐで、内面に段を有す。
2	坏蓋	12.9			白色砂粒・角閃石を含む	濁青灰色	堅く精緻	口唇部がわずかに外反し、内面に段を持つ。
3	坏蓋	12.3			白色微砂粒・角閃石を含む	青灰色	堅く精緻	口縁部が外反し、口唇部に沈線状の段をもつ。
4	坏蓋	12.6			白色砂粒・角閃石を含む	青灰色	堅く精緻	口縁部が外反し、内面に段をもつ。
5	甕				白色砂粒・角閃石・金雲母を含む	淡茶色	普通	口唇外面に刻目突帯をもち、外面板状工具のナデ内面ナデ調整。
土 塚 11 出 土 土 器								
1	甕	14.3			白色微砂粒・角閃石・金雲母を含む	黄灰色～淡黄灰色	普通	口唇部を丸くおさめ、口頸部ヨコナデ調整・体部内面へら削り。
2	甕	14.8			白色砂粒・石英質砂粒・角閃石・金雲母を含む	淡赤茶色	普通	口頸部中位に指頭圧痕成形があり、口唇部を丸くおさめる。
3	甕	14.95			石英質砂粒・角閃石・金雲母を含む	橙茶色	普通	外反したまっすぐな口頸部で、外面に荒いハケ目内面には細いハケ目。
4	甕	14.85			白色砂粒・金雲母・角閃石を含む	黄灰色	普通	いびつな口頸部で、内面ヨコ方向ハケ目の後ヨコナデ。
5	甕	15.9			砂粒・角閃石を含む	(外)黒灰色 (内)黄灰色	普通	外に外弯する口頸部でヨコナデ調整。
6	甕	15.1			金雲母・角閃石を含む	(外)淡灰茶色 (内)暗茶色	普通	口頸部内外面ヨコナデ胴部外面タテ方向ハケ目。
7	甕	15.05			白色砂粒・石英質砂粒・角閃石を含む	黄灰色～灰茶色	普通	口唇部に丸味があり、口唇部ヨコナデ、胴部ハケ目。
8	甕	18.1			白色砂粒・角閃石・金雲母を含む	淡赤茶色	堅く良好	口唇部端部に凹みがあり口縁部ヨコナデで頸部に指頭圧痕。
9	甕				白色砂粒・角閃石を含む	淡赤茶色	精緻で良好	口唇部内面が凹み、口頸部ヨコナデ。
10	甕				白色砂粒を含む	黄茶色	良好	口頸部はわずかな外反で胴部にタテハケ。

No	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
11	瓶				白色砂粒・石英質砂粒・角閃石・金雲母を含む。	淡赤茶色	堅く良好	把手接合部調整の外面がハチノ巣状を呈す。内面へラ削り。
12	瓶	16.8			白色砂粒・角閃石を含む。	淡赤茶色	あまいが精緻	口縁部下が凹む。
13	短頸壺	11.3			砂粒なく角閃石を含む。	淡赤茶色	精緻で良好	口頸部ヨコナデで、体部ミガキ。
14	壺				白色砂粒・角閃石・金雲母を含む。	淡赤茶色	普通	底部荒いハケ目。体部中位細いハケ目。内面へラ削り。
15	壺	10.9	8.6		砂粒含まず良好で金雲母を含む。	赤茶色	堅緻で良好	口唇部やや尖い。胴部外面タテ方向ハケ目。
16	壺	9.7			白色微砂粒・金雲母・角閃石を含む。	茶色	精緻で良好	丸味をもつ口唇部で、接合部が明瞭。外面・内面口頸部丹塗り。
17	壺?	10.1	13.5		白色微砂粒・金雲母・角閃石を含む。	黄茶色	ややあまく粗製	胴長で、口唇部尖り、胴部中位に黒斑をみる。
18	短頸壺	13.1			石英質砂粒・角閃石を含む。	淡赤茶色	良好	口唇部に丸味があり、内外面に研磨をみる。
19	壺	12.4	5.1		白色砂粒を含む。	赤茶色	普通であるが粗末	外面はナデで、底部はやや平底気味。
20	壺				角閃石・金雲母は含むが精選。	赤茶色	ややあまいが精緻	口唇部は丸味があり、外面ハケ目、へラ削り。
21	壺	11.9			白色砂粒をわずかに含む。	淡赤茶色	精緻で良好	外面研磨・内面ミガキ口唇部やや尖る。
22	壺	11.9			金雲母・角閃石を含む。	赤茶色	ややあまいが精緻	口唇部内弯で、体部中位下より外面へラ削り。
23	壺	11.5	5.15	?	白色砂粒・角閃石を含む。	濃明赤茶色	普通であるがややあまい	同上 22より器高が高い。
24	壺	13.2	5.25	?	白色砂粒・金雲母・角閃石を含む。	淡赤茶色	精緻で良好	口唇部器壁がうすく内面で、体部中位下へラ削り。内外面丹塗り。
25	壺	13.0	5.6	?	白色砂粒・金雲母・角閃石を含む。	赤茶色	ややあまい	直立的立より口唇部で体部中位下へラ削り、内面研磨的ナデ。
26	壺	13.5			白色砂粒・角閃石を含む。	赤茶色	ややあまいが良好	口唇部丸くおさめ、外面へラ削り斜目方向。
27	壺	12.4			白色砂粒・角閃石・金雲母を含む。	赤茶色	あまい	口唇部内気味で、口唇部ヨコナデ、外面胴部中位下へラ削り。
28	壺	13.2			石英質砂粒・金雲母・角閃石を含む。	淡赤茶色	ややあまいが精緻	内外面ナデ、ヨコナデの調整で、内外面とも丹塗り。

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
29	壺	12.5	5.7		砂粒あまりなく良好。	赤茶色	ややあまいが良好	内外面丹塗りで、口唇部ヨコナデ外面ナデ。
30	壺	12.1	6.6		白色微砂粒・角閃石を含む。	赤茶色	精緻で堅く良好	口唇部尖り、内面上位、外面丹塗り。
31	壺	13.7	5.9		白色砂粒・角閃石を含む。	赤茶色	普通に精緻	全体的に薄いつくりで、内面板ナデの調整。
32	壺	13.8	6.7		白色微砂粒・角閃石を含む。	赤茶色	堅く良好	内面板ナデの調整で、内外面共に丹塗り。
33	坏蓋	11.5	3.7		白色砂粒をわずかに含む。	淡青灰色	精緻で良好	全体的に厚い作りで、古い要素をもつ。
34	坏蓋	11.7			白色砂粒をわずかに含む。	灰色	良好で精緻であるがあまい	まっすぐな口唇部で、内面に段をもつ。
35	坏蓋				白色微砂粒・角閃石を含む。	淡青灰色	ややあまいが精緻	口縁部・天井部を欠損。
36	坏蓋	12.45			白色砂粒をわずかに含む。	淡青灰色	堅く良好	口唇部わずかに外反し内面に段をもつ。
37	坏蓋	12.55			白色砂粒・石英質砂粒・角閃石を含む。	青灰色	良好で堅い	器壁に厚みがあり、口唇部に段をもつ。
38	坏蓋	12.9	4.6		白色砂粒・角閃石を含む	茶灰色	あまいが精緻	口唇部が外にふんばって肥厚する。
39	坏身	10.25			白色微砂粒・角閃石を含む。	淡青灰色	堅く精緻	口唇部肥厚し、受部に重焼き痕をみる。
40	坏身				白色砂粒・石英質砂粒を含む。	(外)青灰色 (内)淡青灰色	堅く良好	×のヘラ記号をみる。
41	坏身	11.3			白色砂粒・角閃石を含む。	青灰色	堅く精緻	内傾する立上りで、口唇部に沈線状の段。
42	甌	11.9			微砂粒・角閃石を含む。	(外)灰色 (内)灰色 自然釉	堅く良好	ていねいなつくりで、外面に波状文をもつ。内面に自然釉をみる。
43	甌	10.2			微砂粒をわずかに含む。	灰色	堅く良好	ヨコナデで、外面に自然釉をみる。
44	甌				白色砂粒をわずかに含む。	(外)漆黒色 ~灰色 (内)灰色	堅く良好	胴部中位に刺突文をみる。底部ヘラ削りであるがマメツ。
45	有紐蓋	14.05			白色微砂粒を含む。	青灰色	良好で堅い	口唇部に沈線状段をもち天井部カキ目。
46	高坏	12.5	9.1 ~9.7	8.6	白色砂粒・石英質砂粒を含む。	青灰色	堅く良好	脚部に円形の透孔を3ヶ所もつ。
47	高坏				白色砂粒を多く含む。	深黒青色	堅く良好	口唇部を丸くおさめている。

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
48	高坏			9.4	白色砂粒・角閃石を含む。	(外)青灰色 (内)灰白色	堅く精緻	長方形透孔を4ヶ所もちカキ目調整。
49	高坏			10.5	白色砂粒・角閃石を含む。	淡灰色	堅く精緻で良好	長方形透孔を3ヶ所もち全体にシボリ肌。
50	甕				砂粒あまり含まず良好。	青灰色	堅く精緻	外面平行叩き文後沈線で内面青海波叩き文。
石 列 出 土 土 器								
1	埴	8.7			金雲母を含む。	赤茶色	非常に良好	外面ハケ目後ミガキで内面ヨコナデ。
2	甕	15.0			石英質砂粒・白色砂粒を含む。	濃灰茶色	良 好	直線的に反する口頸部で、器表ハクラク。
3	埴	13.9			角閃石・金雲母を含む。	(外)赤茶色 (内)黄茶色	精緻で良好	外面口縁下部部強いナデ後にミガキ。
S D 0 1 出 土 土 器								
6	甕	20.2			白色砂粒・黒い砂粒状物を含み。む	(外)黒褐色 (内)淡灰色	堅く良好	口頸部は外弯し、口唇部を丸くおさめる。
7	浅鉢				白色・石英質砂粒を含む。	茶灰色	普 通	内外面に条痕をみる。
8	甕				白色・石英質砂粒を含む。	赤茶色	ややあまいが良好	し字状口縁を有する。
9	壺	17.4			白色砂粒・角閃石を含む。	淡黒茶色	良 好	二重口縁で、口唇端部に凹み部をみる。
10	甕	17.7			石英質砂粒・金雲母を含む。	(外)黄茶色 (内)灰黒色	良 好	口頸部ヨコナデ。
11	甕	10.5			白色微砂粒を含む。	淡橙茶色	普 通	口縁部が短く、口頸部内面はヨコナデ後ハケメ。
12	甕	12.85			白色・石英質砂粒を含む。	黒灰色	良 好	頸部に指頭圧痕をみる。口頸部はヨコナデ。
13	埴	13.4			砂粒含まず良好。	黒赤茶色	精緻で良好	口唇端部は平坦で外側に溝部がでている。
14	埴	11.3			金雲母・黒雲母を含むが良好で精選	淡乳白色	精緻で良好	口唇部は外反し、尖っており、内外面ミガキ。
15	埴	12.5			金雲母を含むが良好。	濁赤茶色	精緻で良好	丸味をもつ口唇部で内外面ミガキ。
16	埴	12.4			角閃石を含む。	淡茶色	精緻で良好	内面にハケ目をみ、外面に丹塗りを施す。
17		10.0			石英質砂粒を含む。	淡青灰色	堅緻で良好	直線的に立上り、口唇部に段をみる。

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
S D 0 2 出土土器								
1	埴	9.85			角閃石を含むが良好。	淡赤茶色	良好	内外面ミガキで、口縁部が外反する。
2	埴	14.6			金雲母を含むが精選。	赤茶色	精緻で良好	口縁部が外寄り、ヨコナデを内外面にみる。
ビット出土土器								
4	鉢	12.5			白色砂粒・金雲母・角閃石を含む。	赤茶色	軟質であるが良好	口唇部が尖り、内面上位ハケ目下位ヘラ削り。
5	埴	17.5			白色砂粒・金雲母をわずかに含む。	黄茶色	ややまあいりが良好	口頸部は外反し、ヨコナデ調整である。
3 層 出 土 土 器								
1	壺	10.9			白色砂粒を含む。	(外)淡茶色 (内)灰色	普通	外面研摩、内面ヘラミガキ。
2	壺				白色微砂粒を含む。	(外)灰黒色 (内)灰茶色	ややあま いが良好	外面研摩、内面頸部ヘラミガキ
3	洗鉢				金雲母を含む。	黒茶色	ややあま い	口唇部内外面に凹縁、内外面ともヘラミガキ。
4	甕				金雲母・長石を多く含む。	黒色	良好	口唇部外側に刻目、内外面ともに貝殻条痕。
5	甕				長石・石英を多く含む。	茶褐色	良好	口唇部外側に刻目、外面に明瞭な条痕。
6	甕	25.6			石英・長石・金雲母を多く含む。	明褐色	良好	内外面ナデで、肩部にも突帯をもつ。
7	甕				石英・長石を多く含む。	淡茶褐色	良好	内面ナデ。
8	甕				石英・金雲母・長石を多く含む。	(外)暗黄褐色 (内)明褐色	良好	器表内外面ナデ。
9	甕	10.6			石英・長石・金ウソモを多く含む。	明褐色	良好	内外面ナデで、口縁部ヨコナデ。
10	甕				長石・石英を多く含む。	暗褐色	良好	突帯内面に指頭押え後ナデ。
11	甕				石英・長石を含む。	淡茶褐色	良好	外面マメツ、内面ナデ口唇部尖り気味。
12	甕				長石をわずかに含む。	暗褐色	良好	口唇端部平坦で、内外面ヨコナデ。
13	甕				石英・長石を多く含む。	茶褐色	良好	器表マメツ。
14	甕				石英・長石を多く含む。	茶褐色	良好	ヨコナデ。

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
15	壺				長石・石英を多く含む。	明褐色	良好	内外面ヨコナデ。
16	壺				白色砂粒を含む。	(外)黒色 (内)淡赤茶色	良好	如意状口縁で口唇端部外側に刻目。外面板ナデ。
17	壺				白色砂粒等を含む。	(外)灰黒色 (内)灰色	普通	直線的に外反する口縁で外面ハケ目後ナデ。
18	壺				白色微砂粒を含む。	(外)黒茶色 (内)濃灰茶色	普通	内外面ともにナデ。
19	壺			10.3	白色砂粒・角閃石を含む。	(外)灰茶色 (内)赤茶色	良好	外面研磨で、底部指頭圧痕成形、内面不明。
20	壺			8.0	白色砂粒・金雲母等をわずかに含む。	灰茶色	普通	外面指頭痕による成形。
21	壺			7.2	白色砂粒等を含む。	(外)暗赤茶色 (内)黒茶色	良好	同上
22	壺				白色砂粒等を含む。	赤茶色	良好	同上
23	壺			7.3	白色砂粒を含む。	赤茶色	良好	外面ハケ目・内面ナデ。

4 層出土土器

1	浅鉢	25.9			白色砂粒・石英質砂粒を含む。	灰茶色	普通	口唇端部を丸くおさめ気味・内面部分的板ナデ。
2	浅鉢				金雲母を含む。	茶色	良好	口唇部凹線・ヘラミガキ。
3	浅鉢				白色微砂粒をわずかに含む。	灰茶色	ややあまいが良好	内外面丹塗り。
4	鉢	49.1			白色微砂粒を含む。	黒茶色	精緻で良好	口唇部凹線文・外面研磨ヘラミガキ。
5	浅鉢				角閃石を含む。	(外)赤茶色 (内)灰白色	良好	口唇部やや肥厚。
6	浅鉢	13.9			石英質砂粒・微砂粒を含む。	黒褐色	普通	内外面板ナデの調整。
7	壺			11.1	白色・石英質砂粒を含む。灰茶色	(外)赤茶色 (内)灰茶	良好	外面ナデ・底部外面指頭圧痕。
8	壺			10.5	白色・石英質砂粒を含む。	(外)茶色 (内)灰茶色	良好	外面板ナデ後ミガキ内面不明。
9	壺			6.65	白色砂粒・金雲母を含む。	(外)灰茶色 (内)濃灰茶色	普通	外面指頭圧痕の成形。

その他出土土器

1	坏壺	11.45			白色砂粒を含む。	青灰色	堅く良好	口唇端部内面に段。
2	坏壺	11.65			砂粒含まず良好。	青灰色	堅く良好	同上

No.	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴
3	坏蓋	11.8	4.15		白色砂粒・角閃石を含む。	青灰色	堅く良好	口唇端部内面に段 接合痕をみる。
4	坏蓋	11.95			白色・石英質砂粒・角閃石を含む。	青灰色	堅く良好	口唇部端部内面に段。
5	坏蓋	13.3			白色砂粒を含む。	灰色	非常にあまい	同上 体部に接合痕。
6	坏蓋	10.2			白色砂粒・角閃石を含む。	青灰色	堅く良好	同上 受部に接合痕。
7	高坏	13.25			白色微砂粒・角閃石を含む。	淡青灰色	堅く良好	外弯する坏部で、波状文をもつ。
8	高坏			9.6	白色砂粒・角閃石を含む。	青灰色	堅く良好	脚部に長方形透孔3ヶ所もち、カキ目。
9	高坏			8.8	白色砂粒を含む。	(外)青灰色 (内)灰色	堅く良好	脚部に長方形透孔を3ヶ所有する。ヨコナデ。
10	甕	21.55			白色砂粒等を含む。	(外)暗青灰色 (内)青灰色	堅く良好	口頸部に明瞭な接合痕をみる。
11	甕				白色微砂粒を含む。	(外)暗青灰色 (内)茶灰色	堅く精緻	口唇端部に丸味をもつ。

圖 版



〔上〕 上層遺構検出状況



〔下〕 下層遺構検出中状況



〔上〕 下層遺構検出状況



〔下〕 同 上



〔上〕 SB01検出状況



〔下〕 SB07検出状況



〔上〕 S B03検出状況



〔下〕 同 上



〔上〕 S K01・S K11北壁土層図



〔下〕 S X02検出状況



左側・右側上段 SK11出土



右側下段 SB11出土

高祖遺跡群

前原町文化財調査報告書 第29集

発 行 前原町教育委員会
福岡県糸島郡前原町大字前原623番地

印 刷 (株)津村愛文堂
福岡市早良区室見2丁目16-8

